

第3回湖南省産業振興戦略推進会議

議事録

■開催日時：令和元年10月4日（金） 午後2時00分～午後3時57分

■開催場所：湖南省共同福祉施設1階大会議室

■出席者名：

〈委員〉湖南省工業会 会長 園田 英次

甲賀農業協同組合 代表理事 専務理事 田村 安佐

湖南省農業振興協議会 前会長 小島 孝市

一般社団法人湖南省観光協会 理事 北島 輝人

一般社団法人湖南省観光協会 理事 武村 みゆき

株式会社滋賀銀行甲西中央支店 支店長 戸簾 和俊

公益社団法人湖南工業団地 前会長 甲斐切 稔

ジャパニーズ株式会社 中野 龍馬

滋賀県立甲西高校 校長 岸本 英幸

近畿経済産業局地域経済部地域開発室 室長 谷原 秀昭

国立大学法人滋賀大学 社会連携研究センター 特任教授 近兼 敏

滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 塚本 礼仁

〈事務局〉建設経済部 産業振興戦略局 局長 川口 光風

建設経済部 産業振興戦略局次長 山元 幸彦

建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課長 坂田 晃浩

建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課長補佐 黄之瀬 敦美

建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課 主幹 本井 義久

建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課 主事 寺村 憲人

建設経済部 産業振興戦略局 産業立地企画室 主査 木村 瑞生

建設経済部 産業振興戦略局 産業立地企画室 主任主事 檜崎 道清

〈委託事業者〉

(株)しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 主席研究員 志賀 文昭

〈その他〉傍聴人3名

●会議内容

1、開会

2、あいさつ

湖南省産業振興戦略推進会議 近兼 敏 会長

3、自己紹介

4、議事

(事務局)：会議出席者数は12名。

湖南省産業振興基本条例第18条第2項の規定により、会議成立の報告。

(1) 湖南省産業振興ビジョン策定に向けて論点整理

(議長)

- ・議題の湖南省産業振興ビジョン策定に向けてということで、論点整理の説明を事務局からお願いします。

(事務局)

- ・昨年度1月と3月に産業振興戦略推進会議を開催し、その後、各委員からの意見を事務局で整理した。その内容と本日の意見を踏まえて、湖南省産業振興ビジョンの原案を次回の会議で提案し、意見をもらい作成する予定。
- ・冊子の「論点整理⑧」の31ページに今後のスケジュールがあり、今年度にあと2回、会議を開催し、湖南省産業振興ビジョンを策定する予定で、来年3月に策定をする予定。
- ・「論点整理」の詳細については、委託業者のしがぎん経済文化センターから説明。

(委託事業者)

- ・資料の「論点整理⑧」は、本ビジョン策定のために昨年度、2回推進会議が開催され、そこでの議論を踏まえ、さらにさまざまなデータに基づき論点を整理したもの。
- ・目次について。1番は「産業に係る現状と課題の分析」で、マクロ的な地域経済全体の分析、湖南省の産業ごとの分析、産業構造、製造業以下、産業ごとにそれぞれ分析。次に、その現状分析に基づいて課題を一旦分析し、それから第1回目、第2回目の推進会議での意見に基づいた課題を分析し、さらに今後の社会動向等をにらみ将来的な分析を行う。
- ・2番は、「具体的な施策の検討」で、湖南省で考えられる強み、弱みなどから

「SWOT分析」という課題分析手法に基づいて具体的な施策を引き出していく。そして、1回目、2回目の推進会議での課題等に基づいて具体的な施策を引き出していく。

- ・ 3番目は、ビジョンの期間と今後のスケジュール。
- ・ 3ページの「現状と課題の分析」。「地域経済循環図」は国のリーサス（RESAS）という、国が地方創生事業の中で推奨している地域経済分析のデータベースを使っている。以下のページも同データベースを使用。
- ・ 地域経済循環図は地域経済のマクロ的な分析である。その中の「地域経済循環率」は、当該市町が周辺の市町からどれだけ自立しているかをあらわす地域経済の自立度の指標で、100を超えていれば基本的には自立しているということ。湖南市の場合111.7%で、自立度は高い。県内市町でも7番目の高さ。ちなみに滋賀県全体は102.1%なので、それに比べても湖南市は高い。県内で1番は竜王町で約230%、2番目は多賀町で210%、3番目が米原市で160%、4番目が甲賀市で120%、5番目が草津市で116%、6番目が彦根市で113%。この周辺では、栗東市が99%、野洲市も93%で、ともに100を切っている。湖南市はものづくりを中心として、結構自立しているということがこの指標でわかる。
- ・ 次に、生産、分配、支出というマクロ経済分析の数値でいうと、生産（付加価値額）では、産業的にみて第2次産業が強いという産業構造になっている。分配面（所得）では、その他所得、いわゆる企業所得や財産所得が約300億円、市外に流出している。これはひとつの課題だと思う。
- ・ 支出では、民間消費が526億円、市外に流出している。市内ではなく市外で買い物をしているので、これも課題。
- ・ 一方、民間設備投資とその他の支出は、市外から市内に入っている。民間設備投資は、市内にある工場等の設備が市外から入っている。その他支出は、地域内の産業の純移出から純移入を引いたものだが、県外から進出し、市内に立地している企業や工場で、市外から原材料などを入れているということで、約726億円流入している。湖南市は県内でも有数の、トップクラスの自立度の高い市であるといえると思う。
- ・ 4ページの「稼ぐ力分析」。どんな産業が稼いでいるかという指標で、リーサスから入手しており、各産業の付加価値額、労働生産性、従業員数について、特化係数という、市内と全国のそれぞれ割合の比較で、特に付加価値額で全国に比べてどういった業種が高いかということでみると、鉄鋼業、プラスチック製品の製造業の割合が全国の割合に比べて高く、これらの業種が湖南市で稼いでいる業種ということ。
- ・ 5ページの「産業構造」。市内には2016年現在で1,307社ある。支店や営業所を含んだ事業所数でみると約2,000事業所あるが、ここでは企業単位でみていく。その理由は、今回のビジョンの対象の経営主体が市内にある企業であることと、付加価値

値額をみる場合には企業単位でないとみられないため。

- 1,307社の内訳をみると、1位は卸売業、小売業で全体の約2割の20.4%、2番目に多いのは製造業で13.4%、3番目が建設業で13.2%という順番になっている。
- 6ページは、市内企業の従業者数を企業単位でみたもの。総数では1万5,000人強。順番でいうと、1位が製造業の約5,500人で全体の36%、2番目が医療・福祉で2,200人強、14%強という順番。製造業のウエイトが4割弱で非常に高く、滋賀県の中でも5番目に高いということ。全国に比べても、このグラフから製造業のウエイトが高いということがわかる。
- 7ページは、市内企業の付加価値額を企業単位でみたもの。付加価値額は、簡単にいうと販売から仕入れを引いた、いわゆる儲けの部分と考えてもらえばよい。2016年は市内全体では626億6,900万円、製造業が半分強を占め、51.5%。これは県内でも5番目の高さで、県全体、全国に比べても非常に高い。製造業に次いで高いのは、運輸業・通信業で66億1,000万円、約1割。なかでも道路貨物運送業が42億円で、この金額自体は県内でも3番目の高さ。
- 次に、8ページから業種別にみていきたい。中分類で製造業の製造品出荷額等をみると、業種別で1番多いのは輸送用機械器具製造業で847億円、構成比で約20%弱。2番目はプラスチック製品製造業で13.5%、3番目は窯業・土石製品製造業で12.8%。
- 9ページの製造業②で、付加価値額をみると、1位は窯業・土石製品製造業で16.5%、2位が金属製品製造業で13.3%、3位がプラスチック製品製造業で12.9%。
- 10ページの製造業の常用従業者数をみると、一番多いのはプラスチック製品製造業で15.1%、2位が金属製品製造業で13.2%、3位が輸送用機械器具製造業で12.9%。
- 11ページで、どういう企業が市内に立地しているかというところをみたい。まず、湖南工業団地の立地企業のマップをみていきたい。全体では66社で、主なところでは、左の上のほうで、21番のタカラベルモント、33番のクボタ、その横の42番の東洋ガラス、49番の三菱自動車工業など、大手企業の工場が立地している。
- その他の大手の進出企業について、次の12ページをみると、これは、県の企業誘致推進室がホームページにアップしているもので、市町ごとにどのような企業が立地、集積しているかという一覧表だが、そちらから湖南市と、参考までに隣の甲賀市の2つの市の分を掲載している。
- 社名の右側に星マークがついているのは、研究機関や研究開発の機能を持っている工場で、このような民間の研究所が多く立地しているのも湖南市の一つの特徴だと思う。一部、先ほどの湖南工業団地の立地企業と重複するものもあるが、それ以外でいうと、例えば一番上のゴーシュー、タキロンシーアイ、日本精工、TOTOの滋賀工場、タキイ種苗の研究農場、カルビーの湖南工場などの工場が立地している。

- ・これらはマザーファクトリーという、いわゆる研究機関とか研究開発機能を持っている工場で、湖南省から撤退するリスクは低いと思われる。マザーファクトリーは、研究開発用の先端工場で、県外や海外の量産工場をコントロールするような基幹工場のこと。まさに母工場といったものが市内にはたくさんあるということ。ちなみに、右側の甲賀市でも基幹工場が多いというのが特徴。
- ・13 ページは湖南省の農業で、まず、農業の算出額（2016年）は米が全体の約半分以上を占めており、51%で、肉用牛が30%、野菜が12%の順となっている。
- ・14 ページでは、農業の農家数についてみたもの。農家数全体では310戸で、うち専業農家は52戸、兼業農家が258戸。そのうち1種と2種に分けられ、1種は農業所得を主とする兼業農家で19戸。第2種は農業所得を従とする兼業農家で239戸。下の図表はその割合で、これを周辺の市と比べると、湖南省は第2種兼業農家が77.1%で、周辺の市町と比べても結構高い。一番高いのは竜王町だが、続いて湖南省が高いところが特徴。逆に専業農家が16.8%で、竜王町に次いで低いのも特徴。
- ・15 ページの農業③では、産出額を周辺の市町と比較してみた。総額が8億9,000万円で、周りの市町と比べて最も少ない。米の割合は51%で、野洲市、甲賀市に比べると割合は少ないが、栗東市、竜王町に比べると多い。
- ・16 ページでは、農業の作業日数等といった農作業面での特徴をみたもの。まず、年間の延べ農作業日数は6万2,000人日で、近隣市町では最も少ない。隣の栗東市の半分、甲賀市の15%程度。次に、農業経営体の法人化率、つまり法人経営体数を経営体数全体で割った比率だが、これは3.7%で、県全体の2.2%、全国平均の2.0%を上回っている。そういう意味では法人化が進んでいると思う。
- ・17 ページは農地の問題。農地の流動化が湖南省でも進んでいる。流動化率は借り入れて耕作をしている農地の割合のことで、借入耕地面積を経営耕地面積全体で割った割合。湖南省の62%は、県や全国の平均を上回っている。一方、耕作放棄地も6.3%で結構多くて、県平均並み。
- ・18 ページは林業で、市内の総森林面積は3,656ヘクタール、国有林はなく、公有林が303ヘクタール、私有林が3,353ヘクタールで、ほとんどが私有林。森林構成は天然林が半分以上。地元の業者をみると、製材業者が3、木材業者1、生シイタケ生産者が1、生産森林組合は7。
- ・19 ページは商業で、卸売業と小売業。まず、卸売業の事業所数（2016年）は2年前に比べて16事業所増加し75事業所、小売業は、2年前に比べ47事業所増加し、277事業所。下のグラフは、データの関係から途中で途切れて、一部、点線になっているので、単純に比較はできないが、基本的には右側の3年間でみると、2012年から14年にかけて少し減り、それから16年にまた少し増加したということ。
- ・20 ページは年間の商品販売額で、卸売業は383億円となり、2年前に比べ55%増

で非常に高い伸びとなっている。小分類でみると、化学製品卸売業が最も多くて101億円と、約3分の1を占めている。

- ・一方、小売業は381億円で、2年前に比べると17%増と順調に推移している。中身を見ると、その他の飲食品小売業（コンビニなど）が最も多くて82億円となっている。
- ・21 ページは市内の観光で、年間の観光入込客数というデータ。これは各市町から県のほうに報告しているデータだが、湖南市は62万6,000人で、県内では14番目と低い。トップの大津市から市としては下から2番目、しかも100万人を割っている。レベルとしては低い。
- ・22 ページでは、市内の観光客がどういった目的で来ているかということだが、「都市型観光」という買い物や食事のために来ている人が最も多く、62万6,000人のうちの21万9,000人と、大体3分の1ぐらい。次いで、「温泉・健康」。一方、「公園・テーマパーク」、「歴史・文化」などは少なく、このあたりがひとつの課題だと思う。
- ・月別でいうと、一番多いのは紅葉シーズンの11月で、場所としては「ここぴあ」「元気市場」「ゆらら」などに観光客が多く来ていて、次いで多いのが8月で、「夏祭り」「ここぴあ」「ゆらら」。逆に最も少ないのが1月と2月。
- ・23 ページでは、さらに詳しく市内の主要観光地の中のどこに観光客が来ているかというもの。平成29年とあわせて、直近の速報ベースの30年の数字も出ていて全体では59万5,000人で、少し減っているが、「ここぴあ」「ゆらら」「湖南三山」などの観光施設が66.4%で約7割を占めている。ゴルフ場をはじめスポーツレジャー、夏祭り等のイベントを大きく上回っている。ある意味で、このような主要観光地を分散させることも必要かと思われる。
- ・24 ページは宿泊者のデータ。湖南市に宿泊の日本人のデータで、どこから来ているかをみると、東京都が最も多く、大阪府、埼玉県、三重県、宮崎県となっている。1年間の増減では、大阪府以外は増加。これとあわせて市内の宿泊施設はビジネスホテルが主であることを考えると、宿泊客のほとんどがビジネス客と考えられる。
- ・次に、湖南市の人口について説明したい。もうひとつ配付している参考資料の9ページは、平成27年10月に作成された湖南市の人口ビジョンの中から資料を持ってきたもので、湖南市の総人口は、現在、5万4,289人。これは2015年の速報で、既にピークは過ぎていると書かれているが、ピークは2005年の5万5,325人で、それから既に減少傾向に入ってきている。
- ・これを人口構成でみると、15歳未満の「年少人口割合」が現在14.7%、15歳から64歳の「生産年齢人口」が68.6%、65歳以上人口の「老年人口」が16.7%で、高齢化もそこそこ進んでいるという感じ。この人口ビジョンでは、今後、長期的にどのように推移するかというところを予測しているが、2060年にかけて15歳未満の

「年少人口」の実数は減るが、割合は15%と、若干増える。ところが、「生産年齢人口」は大きく1万人ほど減って、割合も68%が55%までダウンする。一方、65歳以上の高齢者の割合は約5,500人増加し、16%が30%のところまで来る。これらの人口ビジョンのこともよく考えていく必要があると思われる。

- ・10ページでは昼夜間人口についてみている。人口というのは基本的に「夜間人口」だが、一方、昼間に通勤や通学で市に来る、市外からの流入人口と、市外に出ていく流出人口をプラスマイナスした「昼間人口」といったものをあわせてみると、平成22年（2010年）では2,885人の流出超過になっている。つまり、入ってくる以上に湖南省から出ているということ。これは2010年（平成22年）の国勢調査の数字だが、直近の平成27年の国勢調査の数字をいうと、湖南省の夜間人口は5万4,614人が5万4,289人。昼間人口5万1,729人が5万3,007人。左側の市外からの流入という1万3,384人が1万3,834人。一番右側の市外への流出という1万6,269人が1万5,116人で、これも差し引きすると1,282人の流出超過になっている。したがって、平成22年に比べると、流出人口は若干減っているが、依然として流出超過ということ。
- ・次の11ページをみると、湖南省にはどこから流入して、逆にどこへ流出しているのかということだが、ともに甲賀市、栗東市、草津市となっている。甲賀市に対しては流入超過で、815人流入が多い。逆に、栗東市、草津市に対しては流出超過となっている。甲賀市から人が湖南省に入り、湖南省から栗東市、草津市に人が出ていっているという感じをイメージしてほしい。つまり、甲賀市を除く周辺の都市に雇用の一部を依存しているということだと思う。
- ・ここで説明を一旦中断し、のちほど、また、課題や具体的施策の検討について説明したい。

（議長）

- ・12ページをみると、マザーファクトリーが湖南省で6社、甲賀市で11社立地している。マザーファクトリーというのがあると、移転しようと思ってもなかなか移転しづらいと思う。マザーファクトリーをどう誘致していくかは一つのポイントになる。

（委員）

- ・第2種兼業農家が多いということは、ほかの職種で儲けてもらっているということで、ほかの業種に“おんぶにだっこ”の農業という部分がみえてきた。我々の理解どおりの結果を分析だと思う。

（議長）

- ・農業は農商工という形になっていて、農業の部分をいろんなところに活かそうというのは、考え方として国の方針にあると思う。
- ・農家数を世帯数で割った世帯数割合でみると、湖南省は1.6%で、竜王町は12.9%、栗東市は2.3%、甲賀市は5.5%で、比率からいうと農家数が少ない。今後1%を切るかもしれない。湖南省には農家がなくなるという可能性もある。いかに農業を守っていくか、どうやって残していくかというのはひとつの大きな課題。

(委員)

- ・湖南省は観光の場所自体が少ない。かといって増やすことはできないので、違う形で観光客を増やす方法を考えないといけない。

(委員)

- ・観光客が少なくて驚いた。来年、商工会の女性部で、県内の女性部を何百人も集めるという行事を企画しているが、どこを観てもらうか、頭を抱えている。いいところはいっぱいあるが、観てもらうには点在し過ぎていると思う。

(議長)

- ・卸売業と小売業が増加しているというが、何が、どう増えていってこの数字になるのかは、調べる必要がある。商品販売額も、いろんな販売の仕方が出てきているので、どこで、どのように売っているのかということも調べたほうがいいと思う。
- ・NHKの朝ドラの効果が、甲賀市で出てくる可能性がある。JR沿線からいうと草津市にも出てくるかもしれない。しかし、湖南省でそれを吸収していくかというのはなかなか難しいが、ハードではなくソフト面で人の流れなどを考えて、どのように吸収するかということもひとつの課題だと思う。
- ・この観光客数の62万6,000人の中の7万人強ぐらいはゴルフをする人で、これは平均してこのあたりで推移するのではないか。すると、残りの観光地でどうやって増やしていくのか、イベントも1つのイベントがなくなって横並びという形になっているので、このイベントをどうやって盛り上げていくかということも課題。
- ・観るところが少ないというところはあるが、私が今、共同研究をしている「嵯峨野観光鉄道」というトロッコ列車は、年間約125万人の観光客が来る。別に嵐山があるから来ているわけではなく、まさにそこを目掛けて来ているということ。湖南省の66万人というのは、もう少しうまくやれば増える可能性はある。例えばトレッキングのような自然を体験してもらうのは、今、海外でもブームになっているので、今後の課題として考えてみてはどうか。
- ・人口では、市外からの流入、市外への流出は交流の部分であり、これも一つの収入

に関わってくることなので、人の流れがどういようように変わっていくかということもデータに加えて考えていく必要があると思う。

(委員)

- ・湖南省の中でも観光客が集まる場所にも得意なシーズン、不得意なシーズンがあると思う。主要な集客スポットで観光客を集められないときにどうすればよいかを検討する際に、月別の観光客データを活用すればよいと思う。

(委員)

- ・卸売業の年間販売額が55%増えているというのは、スタートアップなど新しく創業するときに、いきなり製造業というよりも、卸売や小売から始めるというのは多いので、「スタートアップするなら湖南省」のようなポテンシャルがあるのかもしれないと思った。
- ・農業では、付加価値が高いのは野菜や果物なので、細かく品目別にみて湖南省の特産品というものにも注目していかないといけないと思う。

(委員)

- ・この会議は、観光や農業、全ての産業を伸ばしていこうという手法や方向性を見つけようということだと思うが、そこに“ウルトラC”はないと思う。むしろ、やる人の母数を増やさなければいけない。例えば、既存の製造業とか農業のノウハウの見える化や、地域の資源で使われていないものなどをもっとわかりやすく見せるようにしたほうが良いと思う。また、湖南省が抱えている全ての地域資源を見える化し、市民や社員がそれを使って何かやれる仕組みのようなものをつくったほうが、無限大の広がり方をするのではないと思う。

(議長)

- ・引き続き、残りの資料の説明をお願いしたい。

(委託事業者)

- ・資料、論点整理⑧の25ページを開けてください。ここでは、主にデータからみた現状分析に基づいて、その中からいろんな課題を引き出してくるというもの。地域経済循環、産業構造、産業分析の製造業などの業種ごとのそれぞれ「強み」、「弱み・課題」といったものを簡単に整理しているのがこの図表。
- ・少し細かくみていくと、「強み」としては、例えば地域経済循環のところでは、第2次産業が強いというのは湖南省の大きな特徴のひとつで、市内の設備投資が活発だということや市内産業の純移出がプラスになっていることなど。これは他からさ

まざまな資源が入ってきているというのが多いということ。

- ・一方、逆に「弱み・課題」としては、産業でみると、第1次産業、第3次産業が弱いこと、市民の消費活動が地域外に流出していることなど。つまり、民間の消費額の526億が域外に出ていることがひとつの課題だと思う。
- ・産業構造では、製造業に特化した産業構造になっていることで、逆に製造業以外が弱いこと。製造業の中では、研究機関が併設されているマザーファクトリーが機能していることは「強み」だが、逆に「弱み・課題」としては、ウエイトの高い業種や企業に依存しているため、もしそれらの企業が撤退したら市内の雇用や税収などに大きな影響が出てくる可能性のある点がひとつの課題だと思う。
- ・農林業では、農地の流動化とともに法人化が徐々に進展している点で、「弱み・課題」としては、近隣の市町に比べて第2種兼業農家が多いこと、逆に専業農家が少ないという点。それに、米のウエイトが高く、産出額も少ないことも課題だと思う。
- ・商業では、「強み」としては卸売業、小売業ともに事業所数、年間販売額が増加している点。
- ・観光では、「強み」よりもむしろ「弱み・課題」が多くて、まず、県内の他の市町に比べて観光客自体が少なく、県内でも14番目ということ。時期的には11月と8月に集中していること、場所的には「ここぴあ」「ゆらら」「湖南三山」に集中していて、それ以外の観光地では観光客があまり見られないこと。宿泊客はほとんどがビジネス客であること、これらが観光の課題だと思う。
- ・26ページは、昨年度の第1回、第2回の推進会議で各委員からでた意見を課題という形で整理したもの。大きく3つのテーマに絞って意見交換されている。テーマは、①「産業観光・交流人口について」、②「企業の定着について」、③「地域産業の発展について」で、各委員から意見が多数出ている。
- ・まず、「産業観光・交流人口について」では、「弱み・課題」として、市内にお金を落としてもらい仕組みがなくて、観光でうまく回っていないこと。交流人口、関係人口が増えたとしても、それにあまり対応できていないのではないかとということ、湖南市の特徴を活かした観光施策が元々なくて、そういったものが必要だということなど。
- ・次の「企業の定着について」では、交通網が未整備だということで、特にJR草津線の利便性を向上させたり、沿線の活用を図るといった意見。それから、駅周辺や主要道路沿いの規制緩和、農地の利活用といったものも課題であるという意見が出ている。
- ・最後の「地域産業の発展について」は、持続可能な産業において労働生産人口や交流人口、関係人口が集まらなければ地域の活力が衰退するというヒトの問題が大きな課題だという意見。農業では、収入が少ないから農業従事者が減少するという悪循環になっている可能性があるというのが課題。小売業、卸売業でも消費者や取引

先の多様なニーズの取り込みができていないので、業況は厳しいのではないかというところ。女性の起業や独自の起業の仕組み、制度、補助といったものがないというのが課題だという指摘があった。

- ・次に 27 ページでは、湖南省だけの問題ではなくて、国全体、もっといえば世界的な問題も含め、時代の潮流、環境の変化といった今後の社会動向のなかで将来分析したもので、産業振興にとってひとつの機会、チャンスはどういったところにあるのか、逆に脅威、ブレーキがかけられるのはどんな要因があるかをまとめたもの。
- ・機会、チャンスの点では、製造業では例えば AI、IoT などのデジタル化、自動化、データ技術の進展、ビッグデータの活用、通信環境の発展などが今後、みられること。自動車でいうと、電気自動車や自動運転などの技術革新によって、新しい製品や部品の需要が拡大すること。第 4 次産業革命、society5.0 に関連した製品ニーズが拡大することなどが、チャンスとして挙げられる。農林業では、新規就農や新規参入といった高まりもこれから出てくるだろうということ。農林業の GAP（ギャップ）という農業生産工程管理の認証取得ニーズが出てくるだろう。この認証があれば、米や野菜などの農産物が他の地域のレストランや小売店へも流通するということが考えられる。そして、ジェトロ滋賀が彦根に開設されたこと。商業については耐久消費財などの買い替え需要が見込まれること。観光については、着地型の観光ニーズ、いわゆる体験や学習の要素を取り入れたものへのニーズが高まっていることやインバウンド（外国人旅行者）の増加も考えられる。
- ・脅威としては、製造業では、自動車の生産が頭打ちになって、関連する産業や企業の需要が減少し、厳しくなる可能性があることや、現在の米中貿易摩擦のような国際経済環境が悪化すること、もうひとつの大きな問題は経営者の高齢化や後継者難で廃業が増加してくる可能性がある点。農林業では、高齢化によって耕作放棄地が増えてくることや、定年後に農業をする人が多かったが、定年が延長されることで定年後に就農する人が減っていく可能性がある。これも一つの脅威だと思う。それから、TPP によって安い農産物が入ってくることにより、農業自体が厳しくなることも考えられる。商業・観光では、モノ消費からコト消費という、行動を伴う消費やソフトの消費に需要がシフトすること、店頭での実売ではなく無店舗のネット販売が増え、店舗販売が縮小していく可能性があることが挙げられる。最後に、大型店の進出による地元商店の経営難も考えられる。
- ・次の 28 ページは、今、説明した「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」の 4 つの部分ミックスさせて「SWOT 分析」の一覧表にしたもので、詳しくは説明しないので、この図表を見てほしい。
- ・29 ページでは、第 1 回、第 2 回の会議で 3 つのテーマに沿って各委員から出てきた意見に、この SWOT 分析とあわせて具体的な施策として抽出したもの。右側に「基本ビジョン」を 5 つ掲げている。これは、事務局で相談し、今後、こういう形

で進めていこうという5つ項目を挙げた。

- ・1つ目は、「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」で、企業誘致、進出企業の定着のためのビジョン。2つ目は、「地域内企業の連携強化と起業・第二創業支援」で、地元企業の活性化と創業支援についてのビジョン。3つ目が、「海外事業展開の支援や国際競争力の強化」で、地元企業の海外事業展開、国際化を支援していこうというビジョン。4つ目は、「市・農商工+（プラス）観光で取り組む地域資源の活用と創造」で、湖南省の地域資源を活用して地域を活性化していくビジョン。最後の5番目は、「人材の育成と職場環境の改善による雇用の安定化」というヒトの問題で、人材育成や雇用に関するビジョン。なお、4番目の「市・農商工+（プラス）観光」というのは、見慣れないキーワードだが、前回の2回目の会議で、この振興ビジョンには行政の参画も必要だということで、市も入れたらどうかという意見があったので、このようなキーワードにしたもの。
- ・次の30ページでは、ビジョンの期間を10年間で提案している。市の第二次総合計画の計画期間が10年間で計画されている。2025年度までだが、それにあわせてこのビジョンについても来年度から29年度までの10年間と考えている。ただ、細かい実施プラン等については、真ん中の5年間で前期と後期に分けて進めていきたい。さらに、最後の29年度はそれぞれ見直しの年として設定したいと考えている。
- ・最後のページはスケジュールで、冒頭、説明があったところ。以上。

(議長)

- ・観光地の月別データを追加で出してほしい。

(委員)

- ・湖南省の空き地とか空き家とかの地域資源を見える化すれば、それを使って起業したい人、何かチャレンジしたい人が出てくるのではないかと。行政ではたいへんだと思うので、民間でできるような仕組みとかがあればいいのではないかとという提案である。

(委員)

- ・製造業ばかりで、研究所が湖南省には一部しかないというのが、資料の中から抜けていたと思うので、26ページの弱み、課題分析に追加したほうがよい。

(議長)

- ・データでは6社ある。6社が多いか、少ないかという議論はある。

(委員)

- ・ 6社以外にまだあるのではないか。研究所を誘致すれば、将来の企業の定着率の向上や湖南省から出ていった人がまた戻ってくるということも考えられる。そういうところに弱みがあると思う。

(議長)

- ・ 現状分析の課題として書き込むことと、研究所をもう少し調べてほしい。

(委託事業者)

- ・ 資料を調べて、追加したいと思う。

(委員)

- ・ 湖南省の産業分析の中の商業で、企業数が増えた、減った、あるいは年間販売額が増えた、減ったとかがあるが、インフラなどの施設の増設といったところとの因果関係があるのではないか。ただ単に、事業所が増えたというのではなく、何が原因で増えたとか、具体的なものがみえてこない、産業振興のピントがズレると思う。
- ・ 今、湖南省で運輸業者が土地を探しているケースが増えているが、その要因は、新名神高速道路が通ったことや栗東湖南インターチェンジができたこと、道路が整備されたことなどから、そういうニーズが増えている。その延長線上でどういう業種の、どのようなニーズが増えてきているのかなどを分析していけば、湖南省というのはどういう企業から求められているかということがわかってくると思う。
- ・ また、湖南省で事業を創業していく中で、足かせになっている部分があるのか、ないのかとか、どういうところに問題があるのか、それが人の問題なのか補助金のかなど、細かく聞きながら解決していかなければいけないと思う。そして、湖南省全体としてのまちづくり、あるいは人の交流といったところを考えられたらいいと思う。

(議長)

- ・ どの自治体でも実際に事業所数がどのような変化で増えてきているかは取りづらいデータだと思う。例えば、インターチェンジができて、どれぐらい事業所数が増えたかという数値は把握しづらいと思う。私どもの大学の経済学部で研究するとしても、ほとんど把握できない。どの自治体もリーサスで大まかなデータを取って、それをできるだけ細分化して、個別に調査される形だと思う。
- ・ 創業者数はわかると思うが、どういう業種で増えたかとなると、なかなかわからない。個別に聞いていくしかないと思う。

(委託事業者)

- ・事業所数増減の要因については、個別にヒアリングに行くか、アンケートをするかでないとわからないと思う。

(委員)

- ・この具体的施策の検討の方向性とか基本ビジョンについては、異論はない。このような形で進めていけばよいと思う。
- ・2025年の大阪・関西万博のことも考えておく必要があると思う。万博が開催されると、関西全体が科学技術のショーケースのようになっていくのが望ましいと思っている。いろんな科学技術の実験が関西で展開され、会場は大阪だが、広大な土地があるとか、既にさまざまな社会実験の実績や研究所の立地などのポテンシャルのあるところがこのショーケースの場になる可能性があると思う。また、2025年の万博を目指して今から科学技術をどう伸ばしていくか。そのときに湖南市をキラッと目立たせる、海外に名前を売る、こういった可能性というのはどんな方法があるかということをおの中にに入れてほしいと思う。
- ・中小企業の今後の展望の中で、中小企業庁に大きな4類型というものがある。「海外展開の分野」と「サプライチェーンの分野」、「地域資源活用の分野」、「生活支援・生活課題解決の分野」の4つの分野があって、この分野に対して中小企業庁はいろんな施策を考えている。5つの基本ビジョンをみていて、生活課題、社会課題に対する支援は、多分、第二創業やNPO的な業種が入ってくると思っている。この中小企業庁の4類型もしっかり視野に入れながら、この基本ビジョンを作っていくことが大事だと思う。

(委員)

- ・今日は3回目の産業振興戦略会議で、いろんなデータをまとめてもらったが、これからどうしていこうかというところが一番大切だと思う。仕事柄、道路のことがひとつ挙げられる。甲賀市では今、「名神名阪連絡道路」（名神高速道路と新名神高速道路、名阪国道をつなぐ連絡道路の整備）を重要物流道路と位置づけた運動を展開している。
- ・また、信楽が今回のNHK連続ドラマ『スカーレット』の舞台となり、来年の連休ぐらいまで、かなり人出が予想される。隣の自治体でそういったことをしているのを隣の湖南市は指をくわえて見ているだけで、むしろそれを利用できないのかなと思う。「湖南三山」はこれから秋の観光シーズンだが、以前は年間を通して多かったイベントもやめているので、観光客は減ってくるだろう。
- ・やはり先ほどの研究機関などの、湖南市「らしさ」を利用していくようなことを、行政を中心にして行っていくことや、せっかく工業団地があるので、地の利、産業を生かすような政策を進めていかないと、これから先も弱みを潰すことは難しい。

「らしさ」を伸ばしていくことが必要だと思う。

(委員)

- ・ものづくり、製造業をどう伸ばしていくかと一口に言っても、大企業をはじめとするマザーファクトリーを伸ばしていくという方法もあれば、スタートアップというベンチャーをもっと伸ばしていくという方法もあり、さらに、製造業や非製造業などのどこに力点を置くかというのは非常に難しい問題だと思う。
- ・近畿のある県の産業・雇用振興部長と話をする機会があり、今までの県の政策は人口を増加させることばかりに力を入れてきたが、この人口減少社会においては人口を伸ばすことにはやはり限界があり、人口が減るのはしょうがないので、いかに産業を振興していくかに重点が移っていると言っていた。
- ・また、地公体の産業政策は、広大な土地を確保して、そこに大きなものづくり企業を誘致して、大量生産、大量販売してもらおうという今までのスタイルから、これから10年先、20年先は、第4次産業革命でいかにIoTやAI、ロボットなどの産業、つまり小さな面積で高付加価値を生む企業を誘致してくるかというのが大事だと言っていた。
- ・これは、どの県でもいえるし、基礎自治体でもいえることだと思う。湖南省でも広大な土地はないと思うので、限られた土地でどのような使い方をして価値を生み出か考えた場合、単にものづくりを伸ばすとか、中小企業を振興しますということではなくて、強弱をつけて、一番、費用対効果の得られるところを狙っていくことが重要だと思う。業種別、分野別の細かな戦術、戦略というものを検討し、どの分野を伸ばしていくかを考えていかなければならないと思う。

(委員)

- ・工場をこれ以上誘致していても何の付加価値も生まない。固定資産税が増えるだけ。
- ・レクリエーション施設として市内にはゴルフ場が2つあるが、ゴルフ場から利用税をとるだけで還元をしない。だから、6万人ぐらいしか集客がない。兵庫県三木市では25ほどあり、当地のゴルフ協会に何千万円もの補助金を出し集客増を図っている。こういう考え方が必要だ。参考までに甲賀市では、昨年度から300万円をスポーツ協会に補助し、それでスポーツ人口を増やし、健康な生活を送ってもらい、社会保障負担を少なくしようというものの考え方、視点がしっかりしている。湖南省も今後の展開として観光や健康産業など、いろんなことを考えているが、これらの点をしっかりと見据えてやっついていかないと、この市は良くなれないと思う。
- ・『スカーレット』の関連番組が昨日、NHKであったが、甲賀市は忍者などいろんなものを出していて、ついでに湖南省も映り、何が映ったかという、「弥平とうがらし」と「下田なす」のいろんな料理だけ。それで終わった。しかし、湖南省に

は先人から培われてきた重要な文化財や国宝がある。そういうところを市もNHKにもっとPRすべきではないか。今あるものを使って実践し、そして今後の展望を模索する。そうすれば集客が増え、相乗効果が出てくる。それには何が必要かは長期のビジョンで考えるほうが良いと思う。

- ・確かに、研究所は小さなスペースで済む。工業会の立場としても、なぜやらないかと口酸っぱく言っている。「未来構想パーク」とか「未来都市」とかができているが、そういう考え方を湖南省も持たなければいけない。

(委員)

- ・創業の話だが、例えば湖南省でカフェをやります、服屋をやります、何か店をやりますとしても、人口5万人の町なので食べていけるのは、多分その人しか食べていけない。地域で操業する事業をいくつ作っても、その人が食べていけるだけで、雇用はさほど増えないと思う。
- ・そういう観点でいうと、「はたけのみかた」は、湖南省での創業の希望の星だと思っている。というのは、「はたけのみかた」のサービスは、基本的に湖南省の人に売るわけではなくて、全国に売るというサービスをしているので、湖南省にある資源を使って、外からの人に買ってもらう、ないしは使ってもらうというサービス。
- ・例えば、外からの人何かしたいと思っているときに、その人にお金を払うのではなく、実績をここでチャレンジしてもらい仕組みみたいなものをつくれたら良いと思う。東京や大阪、どこでもアイデアは持っていてやらせてもらえないけれど、湖南省だったらやらせてもらえるという形にして、市の内部の人たちが頑張るのではなくて、外から、例えば湖南省に元いた人がUターンで実績を持ってやりたいからここでやるという形にしたら、産業としての広がりも見せられる。このような施策をしたほうが良いと思っている。
- ・そういう意味では、製造業も農業も観光もそれぞれ門戸を広げて、アイデアを持っていますという人が来たら、その人に場所やサービスを提供したり、「こちらの資源を使ってください」というようにしたほうが良いと思う。人口5万人の湖南省だけで頑張るのは無理だと思うので、入り口を広げて、「こんながあります」といったほうが良いと思います。アイデアとしてもこういうのができたら、すてきなまちになるのではないかと前から思っている。

(委員)

- ・この戦略には土地の利用や活用は入っているのか。

(議長)

- ・これから考えていけばということです。資料の30ページにあるように産業振興ビ

ジョンの期間が10年間で、前期の5年間で中期の計画を立てて、「こういう市になりましょう」というところの計画を立てて、具体的に進められるという形になってくる。10年先という期間で考えると、土地の活用、利用というのは十分考えられる。

(委員)

- ・私が言いたいのは、湖南省が今までの10年間でどれだけ規制を外したかということです。いまだに旧国道1号線は、県道になったが発展のしようもないし、産業も増えてこない。先ほど、インフラ政策の問題も出たが、このビジョンの中に入れられるのか。ある自治体では初めから圃場整備もしないで、規制がかからないようにやっているが、湖南省は一向に進んでいないから、いろんな産業を増やしていこう、環境を良くしようと思っても、なかなか進まない。この産業振興ビジョンの中に入れればどうかと思う。

(議長)

- ・今の意見は資料の29ページの「基本ビジョン」の中の「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」の項目になっている。ですから、今後、この5つの項目の中で、ある程度、取り上げていくことになると思う。

(委員)

- ・この10年間でどれだけ規制緩和したかをみれば、今後の課題が出てくる。規制を外さなかったら何もできない。

(議長)

- ・先ほど、過去のデータはリーサスしか出なかったと言ったが、今後、規制緩和を進めていけば、データとして取れる。例えば1年目に規制緩和をどれだけしたか、2年目にどれだけするかというデータは取れる。そして10年目にどれだけしたという実績データは出てくると思う。今まではそれをとっていなかったかもしれない。規制を緩和する必要があるかどうかは、「こういうことをやるためには、ここの規制を外したほうが良い」などの検討が必要だと思う。

(委員)

- ・個別にはなかなか言いにくいところがあるけれど、全体的な構想としては必要だ。

(委員)

- ・今回、この産業振興戦略会議ということで湖南省の将来像の計画の中で、教育団体

の一つとして出席を依頼されたと思っているが、その中で我々ができることは少ないというのが正直なところ。例えば、29 ページの中の「人材育成」というところが主な仕事になるのかと思っているが、逆に、湖南省の産業振興戦略を進めていく上で、どういう人材が要るのか、また教育機関にはどういうことを望むのかということをお教えてほしい。

(議長)

- ・以前のこの推進会議で、高校生に工場見学をしてもらうことや学生の就職につながればよいというような意見があった。
- ・では、意見がなければ、これからの進め方について確認していきたい。今日のところは、委託事業者から現状分析や課題の整理、以前の会議の内容整理について説明を受け、そして、これから各委員からいろんな意見を出してもらうという形でこの会議を進めていくことを確認した。具体的には29 ページの右側に記載の「基本ビジョン」に沿いながら、今後、進めていく形になる。
- ・この産業振興ビジョンは、例えば来年に何をしようかということなら、結構、具体的にいろいろ出てくると思うが、「これから10年先の湖南省にこうなってほしい」ということを考えてもらいながら提案してほしい。ただ、今後5年間ぐらいである程度、目途がつくようなことを考えてもらったほうがよいと思う。
- ・では、本日の議題としては、これで終了とします。

5、閉会

(商工観光労政課)

以 上